

東京のまちづくり

特集1 ジャイアントパンダの誕生日記念企画
明るい未来へ！上野で生まれたパンダたち

特集2 神田川・環状七号線地下調節池
インフラツアーを開催いたします

特別特集 第2回「無電柱化の日」フォトコンテスト 開催中!

シンシンと双子(2022年6月13日撮影 355日齢)



雄シンシン、右レイレイ

リーリー(2022年6月27日撮影)



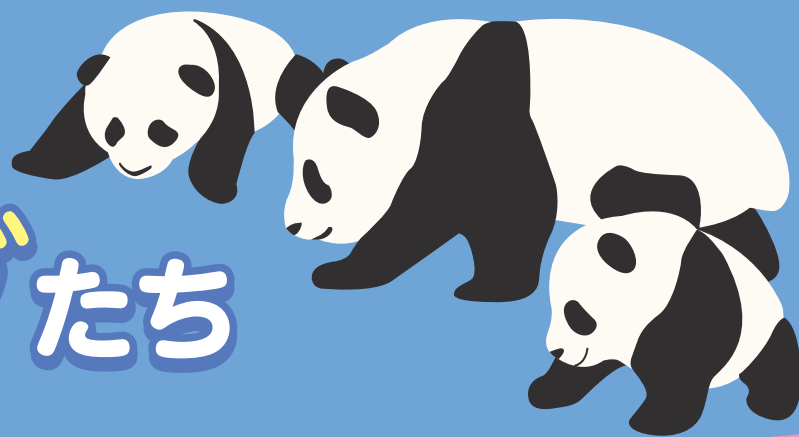
神田川・環状七号線地下調節池インフラツアー



ジャイアントパンダの誕生日記念企画

明るい未来へ!

上野で生まれたパンダたち



上野動物園では、2021年に生まれたジャイアントパンダの双子「シャオシャオ」「レイレイ」が6月23日に満1歳、2017年に生まれた「シャンシャン」が6月12日に満5歳を迎えました。そこで、3頭が無事に成長したことを祝うとともに、50年のジャイアントパンダ飼育歴の中で、これまでに生まれ育ったパンダにもスポットを当てたイベント「明るい未来へ！上野で生まれたパンダたち」を実施しました。

6月7日から7月3日までは園内で「上野で生まれたパンダたち デジタルクイズラリー」、パネル展「上野で生まれたパンダたち」、フォトスポット



1歳を祝う会

「ジャイアントパンダと記念撮影」、「特別壁紙プレゼント」などの企画を実施し、多くの方々にご参加いただきました。

6月18日、19日には小学生以下のお子さまを対象に「シャオシャオとレイレイにお誕生日メッセージを書こう!」を開催。2日間で約160人の子どもたちが作ったお祝いメッセージカードを園内に掲出しました。

6月20日には「シャオシャオ・レイレイの1歳を祝う会」が開かれ、小池都知事からお祝いの言葉や餌のプレゼントがあったほか、14人の子どもたちが作成したお祝いメッセージカードのお披露目などがありました。

祝う会の様子は、上野動物園の公式サイト「東京ズーネット」で紹介していますので、こちらもぜひご覧ください。



シャンシャン



シャオシャオ(上)とレイレイ(下)



19年ぶりのオジロワシ(尾白鷲)の繁殖

多摩動物公園 野生生物保全センター 小島善則

今年4月、多摩動物公園でオジロワシが19年ぶりに繁殖し、2羽のヒナが誕生しました。

オジロワシは翼を広げると2mに達する大型の鷲で、冬に日本に渡ってきますが、一部少数が北海道で繁殖し、国の天然記念物に指定されています。当園では、1976年に国内で初めてオジロワシの繁殖に成功し、その後、初代ペアから生まれた子が次世代ペアとなり、多くの子孫を残してきました。

今回繁殖したのは、「明神」(オス、2013年生)と、2002年に北海道で保護された、飛翔できない「北見」(メス)のペアです。明神の母親は、多摩の2世ペアから生まれた「天神」(1987年生)で、姫路市立動物園で繁殖して明神が生まれ、その明神が多摩に帰って新たなペアとなったのです。ですから今年生まれたことも初代ペアから続く5世になります。

明神×北見ペアにとって初めての子育てで、生まれたヒナをペアが顔をそろえて覗き込む姿が印象的でした。最初はなかなか巣にエサを運ばなかったり、ヒナにうまくエサを与えられなかったり、はらはらしましたが、ヒナは順調に育ち、6月に2羽とも無事巣立ちを迎えました。飛翔できないメスが子育てをやりとげたこと、そして多摩のオジロワシの累代繁殖をつなぐことができたことは、二重の喜びとなりました。

動物園には、希少種の域外保全(野生のバックアップ)という役割がありますが、それも、こうして累代繁殖によって世代交代しながら命をつないでいくことではじめて可能になるのです。

動物園の“かお”

多摩動物公園 アジアゾウ

3頭のアジアゾウがくらす「アジアゾウのすむ谷」に、ぜひお越しください。写真: アジアゾウ「ヴィドゥラ」

